



## 研究所だより

### ●岡安 喜三郎●

#### ●管 剛文●

東日本大震災から、3年目となる年を迎えました。まだ、被災3県の復興への道のりはまだまだ遠いですね。総研がこの3年近く取り組んできた福島への支援・活動は、長い時間かけても共に立ち向かう活動として、個人的にもライフワークとして組織の枠を超えて取り組んでいきたいと強く決意しております。

夏より、協同総研は新体制でスタートし、新しいメンバー中心で頑張っています。私は総研の主たるルーチンワークからは、徐々に抜けさせていただき、環境省の委託研究を中心とした仕事と労協センター事業団での

仕事にシフトしています。そんな兼務の体制となりますので、総研からはゆっくりとフェードアウトしつつ、新体制をサポートしていきたいと思います。

また、自分の中ではそろそろ、人生の折り返し、見つめ直し、自身の地域を拠点とした活動に力をいれていきたいと思います。今年もよろしくお願いいたします。

#### ●上平 泰博●

新年早々、早大戸山キャンパスを会場に「子ども・若者フォーラム2014」が開催された。両日合わせて1500名以上の参加者。熱気と勢いのある画期的なフォーラムだった。全体会では小学生たちによる自然と社会を舞台にした堂々とした活動映像の発表に続き、若者からも「JKお散歩」「JKリフレ」の実相がクリアーに語られ、おとなたちをドキリとさせた。ついこの間まで難民高校生、不登校、ニート、ホームレス、貧困、虐待児といわれ続けた当事者



たちが参画し、まだその傷も癒えない人たちが社会的に排除されまいと真正面から本気になって挑んできた。本集会は子ども・若者たちを中心にしたまちづくりが据えられたこともあって、当事者主体の形成と体験が生の声が話され聞こえた。「支援する」「支援される」の関係から当事者(との伴走型)へと完全にシフトされたといえる。

くわえて38億年前の「命の誕生」というスケールと脈絡から参加者たちに迫って来た。スキル獲得に走りがちな福祉や教育の「専門性」「専門職員」とはなにかを現場は問われた。対して、労協が提起してきた「FEC自給圏」や「里山資本主義」の中に生きる子ども・若者たちの姿や実践が絵空事ではなく、分科会で想定され実際その取り組みが報告されている。よくありがちな特定分野別の分科会ではなく、清掃、農林業、仕事などを包含した労協運動全体の到達点から、いまここに居る子ども・若者たちの夢と希望を将来ではなく、明日からでも実現しようという比類なきフォーラムとなった。

#### ●相良 孝雄●

2014年が始まりました。100年前の1914年は第1次世界大戦が勃発しました。200年前の1814年は「会議は踊る、されど進まず」で有名な、フランス革命前の体制にする「ウィーン体制」が敷かれました。いずれも大国同士の利害の中で、帝国主義のもと、市民自治を抑圧した出来事でありました。2014年、憲法改正、原発再稼働、特定秘密保護法など、市民主体の社会ではなく、政治家が動かしやすい社会づくり、お金を消費させることを礼賛する経済最優先政策、富めるものみの利権が最優先する社会となっています。2014年が「どのような社会になるか」ではなく、「どのような社会にするのか」という私自身の主体性と市民の自治能力が試される年だと考えています。今年子どもが生まれる予定です。未来の子どもが自分たちで社会をつくれるように、今、大人である私自身が社会を変える実践を会員の皆さんとともに作りたと思います。本年もよろしくお願い致します。

#### ●細越 雄二●

映画「ワーカーズ」の劇場公開が昨年2月2日に東京・ポレポレ東中野で始まり、約1年。各地での上映会を経て、また東京に戻ってきました。

本年2月22日から3月7日までの毎日1回、東京・渋谷のUPLINK(アップリンク)で、上映されます。まだご覧になっていない方でお近くにいらっしゃる方はこの機会にいかがでしょうか。

お問い合わせは、映画「ワーカーズ」全国上映普及委員会(電話:03-6907-8032、E-mail:workers-movie@roukyou.gr.jp)まで。